



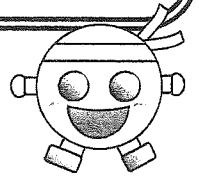
学校だより

令和5年4月28日

5月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「不教人育」

校長 加藤 智敏

「校長先生、ぼく、一人でエレベーターに乗って下に降りられるようになったよ！」

「今ね、忍者になって学校を探検しているの。いろいろなもの発見しちゃった！」

校長室に遊びに来る1年生や、授業で学校を探検している1年生が嬉しそうに報告してくれます。生活上でできるようになったこと、学校でできるようになったことを喜ぶ姿にこちらでも思わず頬がほころびます。

「幼虫が寝ているから、起きるまで待ってるんだ。」と観察中の生き物を大切にする姿や、「これは何かの卵かな？それとも何かのタネかな？育ててみたいな。」と問いをもち、自分で学びをつなげていこうとする姿を見ることもできます。新しい学年に進級し、活動に意欲的に取り組む姿や関わりをもったもの（教材）に興味関心を高めている姿を見ると、今後の追究過程が楽しみになります。

自分でできることを増やしている姿だけではありません。登校班で登校する際に上学年が下学年を気遣いながら歩く姿、6年生が1年生の教室に行って牛乳パックの開き方を熱心に教える姿、ある雨の朝には、傘立ての傘の乱れを「自分のクラスの傘を揃えていたら気になってほかのクラスも直していたの」と一生懸命に仲間の傘を整える姿。人のためにできることを増やす姿も数多く見ることができました。教室で関わる教職員はさらに多くの姿を見つめていることでしょう。日枝っ子は着実に育っています。その中でも、昨年度この時期に中々校内に入れなかった子が、正門前で泣いている1年生に「一緒に行こう」と声を掛けていた姿を見たとき、私が教師になって1年目に、大学時代の恩師からもらった葉書に書かれた言葉を思い出しました。そこには「不教人育」とありました。まさに、子どもは自ら育つ、仲間、人、ものとの出会いや関わりの中で大きく育っていくのだと改めて実感させられました。

授業参観でも、新しい仲間と関わる子どもたちの様子が見られたと思います。元気よく自分の考えを述べる姿、じっくりと問題について考える姿、また、中には端末を活用して調べたり、考えをまとめたりする姿。子どもたち自身も新しい仲間との授業にまだまだ慣れない様子が見受けられますが、子どもは豊かな関わりの中でしっかり育っていきます。今年度一年、子どもたちがどのように成長していくのか、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に見守り、支えていきたいと思えます。

4月中の集団登校の期間、保護者の皆様、地域の皆様には、子どもたちの登下校を支援いただき誠にありがとうございました。温かな見守りの中で無事登下校を行うことができました。保護者や地域の皆様、そして、関係諸機関の皆様の子どもを想う気持ちに支えられ本校の教育活動が、豊かに充実しておりますことに心よりお礼を申し上げますとともに、今後も「生き生き日枝っ子」「子どものために人が集える学校」の具現化のために更なるお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。